

学位記を受け取り決意を新たにする小樽商大の学生



樽商大 557人巣立ち

小樽商大で14日、卒業式に当たる学位記授与式が行われ、学部生510人、大学院生47人が思い出の詰まったキャンパスを巣立った。

4学科と大学院過程を代表する7人が壇上で学位記を受け取った。和田健夫学長は告辞で「創造力や創意工夫、人工知能にはできない他人と共同して働く力が社会に求められている。卒業後も自分を高める意欲を持ち続けることが重要」と述べた。学業や課外活動などで優れた成果を残した12個人、1団体が表彰された。釧路で公務員となる社会

情報学科の松坂みゆさん(22)は「小樽を離れるのは寂しいが、学生時代の経験を生かして頑張りたい」と語っていた。(三坂郁夫)

■ 緑丘に別れ！ 小樽商大で卒業式 (2017/03/14)

ツイート

緑丘に別れ！ 小樽商大で卒業式



卒業シーズン真っ只中の3月14日(火)、小樽商科大学(緑3・和田健夫学長)の商学部及び大学院商学研究科の学位記授与式が、同校体育館で12:00から執り行われた。

平成28年度の卒業生は、昼間コース467人・夜間主コース43人・大学院(修士)修了者47人の計557人。思い出溢れる緑丘から旅立ちの日を迎えた。

式前に、札幌シンフォニエッタによる管弦楽のミニコンサートが開かれ、学生生活の思い出を綴るスライドショーが上映された。

式では、来賓、教職員やOB、家族らが見守る中、各コースの代表が、和田学長から学位記を授与された。



和田学長は、「小樽商科大学は、幅広い分野の学習をさせることを軸に、特定の分野において、深い専門知識を掘り下げる教育を行ってきた。また、実践を通じた社会体験、様々な分野で活躍する人と交流の機会を与えることに努めてきた。それによって、皆さんが得たものは、社会に出て仕事のために身に着ける能力や想像する困難と比較すると、ささやかなことかもしれない。しかし、大学で能力と態度を身につけ、少なくともその大切さを認識できたのは意義あり、皆さんの今後の人生が有意義なものであることを信じている」とエールを贈った。

その後の学生表彰では、学業の成績が特に優れている4人と、課外活動の成果が顕著で振興に功績が認められた学生や団体に贈られた。

大学在学中に北海道をはじめ、東北・関東を含む計7つの空手の大会で優秀な成績を収めた者、北部地区国公立大学水泳競技大会や全国国公立大学選手権水泳大会において優秀な成績を収めた者、本学の名誉を高めたと認められる団体として、学生が起業し狸小路でイベントを開催するなど地域活性化に貢献した「株式会社アイボックス」に贈られた。



同大合唱サークル「グリークラブ・カンタール」17人による、校歌と若人追憶の歌(寮歌)をアカペラで歌い、澄んだ歌声を会場に響かせた。

希望する会社に就職が決まった商学部卒業の横山拓真さん(22)は、「色々な人と出会えて良かった。高校とは違い、勉強もやる気次第で、やりたいことに取り組めるのが大学だと思う。3年の頃ゼミで会社を立ち上げ、地方のイベントや祭りに参加し、特産品を使った料理を出店したり、地方の高校の魅力を伝える講演をしたことが思い出になった」と

大学生生活を振り返った。

体育館前には、大勢のサークルや部活などの後輩が集まり、先輩との別れを惜んでいた。

同校の今年度の就職状況は、昼間・夜間主コース510人の卒業生のうち、就職希望者は470人。内定者数464人・98.7%の内定率。各コース別では、昼間コース98.8%・夜間主コース97.4%の内定率となった。非就職者数28人・進学者数12人。

就職先については、公務員に79人が内定し、そのうち、札幌市役所に23人が内定。地方公務員の人気が高い傾向が見られる。

大学院(修士)修了者47人の卒業生のうち、就職希望者は39人で内定者数36人・92.3%の内定率。非就職者は8人・進学者数0人。

大学院最高齢修了者は、アントレプレナーシップ専攻の61歳だった。

「あんかけ事典」改訂へ

樽商大生NPO 出資呼び掛け

小樽商大の江頭進教授のゼミの学生らでつくるNPO法人EGAO(えがお)が、小樽市の当地グルメのあんかけ焼きそば提供店を紹介する書籍「小樽あんかけ焼きそば事典」を改訂する準備を進め、取材に奔走している。「小樽の地域活性化の一助に」と熱意を傾けるが、インターネットを通じ出資者を募るクラウドファンディングによる資金集めが難航し目標に達していない。学生たちは「小樽のソウルフードPRのために協力を」と出資を呼び掛けている。(中野訓)

最初の「事典」は2013年度に出版し、当時のゼミ生たちが市内のあんかけ焼きそば提供店64店を紹介。店ごとの特徴を細かく記し、取材で感じたことをめとめた学生コラムや小樽のあんかけ焼きそばの歴史なども盛り込む力作で、初版2千部は2週間で底を突き、急ぎよ4千部増刷した。しかし、4年たち、新しい提供店が現れる一方、既存店閉店もあり、改訂版を出版することにした。学生たちは現在、各店を取材。表紙デザインなども自ら手がける予定だ。改訂版は80店ほどを紹介し2千部を印刷する計画。1冊5000円以内が目標。



小樽市内のあんかけ焼きそば提供店を紹介する書籍の改訂のため出資を呼び掛けるNPO法人EGAOのメンバーの小樽商大生たち

同NPOは出版費用捻出のため、今月1日からクラウドファンディングで50万円を目標に出資を募っているが、12日までに集まったのは10万8千円。同NPOの東海林知貴理事長(21)は「印刷費用をまかなうには全然足りない」と話す。同NPOは改訂版を小樽や札幌のコンビニ、書店で販売し、収益を小樽をPRする観光ビデオ作成など同NPOの別の活動費に充てる考え。出資は専用サイト(http://actnow.jp/project/npo_egao/detail)で受け付けている。